



ID 037414

教育レポート

地域で育む

保護者や地域住民が学校教育に携わる「コミュニティ・スクール（CS）」。令和4年度から順次取り組みが始まっていて、いよいよ全中学校区に広がりました。地域の人たちはどんな関わり方をしているのか、活動している人たち取材しました。

問合 教育総務課／Tel674-7612
(学校運営協議会については教育指導課／Tel674-7631へ)

子どもの未来

地域の皆さんが学校応援団に

CSとは学校運営協議会を設置した学校のこと。学校運営協議会では、保護者や地域住民が、校長の示す学校運営に関する基本的な方針や学校運営に必要な支援に関し、協議・承認します。そしてその内容に沿って、地域の皆さんが学校応援団として具体的な支援を実施します。

地域の知識・経験を生かす

CSでは、中学校区ごとに保護者・地域住民が義務教育9年間で子どもたちに付けてもらいたい力を共有し、連携・協働します。

中学校区ごとに目標や課題は異なり、地域でできることもさまざま。地域の特色を生かして地域みんな子どもたちを育てていきます。

地域の担い手の育成にも

地域と連携することで、子どもたちは学校だけでは実現できない学びを体験したり、地域との関係を深めたりすることができます。地域の多様な大人から学ぶことで地域への愛着心を育み、将来の地域の担い手となることも期待できます。



CHECK1 どんな活動があるの？

これまで保護者や地域住民がボランティア活動などとして行ってきた活動も含まれます。CSでの活動は「地域学校協働活動」と呼びます。

【活動例】

学習支援



安全・見守り



花壇の整備



CHECK2 活動が実施されるまで

①学校側のニーズを整理

学校は、学校運営協議会で承認された方針に基づき、具体的にどんな支援をお願いするか、整理します。



②学校応援団が協力できることを提案

学校応援団として登録している保護者や地域住民に協力を呼びかけます。学校応援団が多いほど、活動の幅が広がります。

絵本の読み聞かせ



③地域学校協働活動の実現へ

中学校区に関わる大人たちみんなで地域を担う責任ある大人に育てます。

昔遊びの授業を支援



次ページから、学校応援団として活動している人たちを紹介します

密着

活動を見てみたい

令和4年度から先行してCSの活動に取り組んでいる第八中校区と城南中校区の活動を見てみましょう



安全・見守り活動
吉本綾子さん

保護者として参加。いろんな子どものリアクションがうれしい



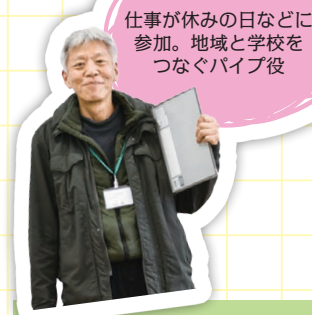
学校の雰囲気を知る機会が増える

奥坂小学校の校外学習で実施された「秋探し」。その補助をした吉本さんは、公園まで児童たちの安全に配慮しながら誘導します。紅葉した落ち葉などを拾い集めた児童たちが「こんなにたくさん拾ったよ」と吉本さんに声を掛けています。吉本さんは児童の話聞きながらも、安全に気を配っていました。

保護者という立場でもある吉本さんは、「子どもの笑顔が好きで、とにかくかわいい。自分の子ども以外の学年やクラス、先生の雰囲気を知ることができて、新しい発見があります」と話します。

子どもが入学し、時間の余裕が生まれたタイミングで学校応援団の募集を知った吉本さん。「保護者同士の交流が増えるというメリットもありますし、学校を支援できたらいいなと思って活動しています」

みんなで一緒に秋を探せて楽しかった



仕事が休みの日などに参加。地域と学校をつなぐパイプ役

総合的な学習の時間への支援
竹内賢一さん

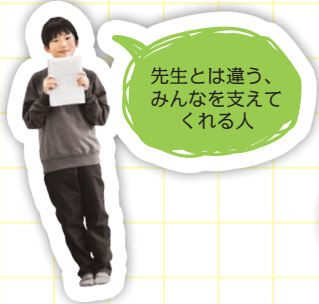
「地域のおっちゃん」としてアドバイス

若松小学校で総合的な学習の時間のサポートをしている竹内さん。地域の人同士が交流を深めるイベントを企画する授業に参加しています。「子どもだけで成功できるように、アイデアの種を渡しています。話し合うテーマによっては、子どもだけだと進まないことも。そこで地域の人が助言すると、自発的に発言したり、アイデアを出したりしてくれます」。

地域交流を増やして、地元が好きな児童が増えてほしいと話す竹内さん。「一時的に地元を離れることはあっても、また戻ってきてくれたらうれしいです」。



発表を見守る竹内さん。「子どもたちが自発的に企画すると、成功すれば達成感を感じているし、失敗しても次に生かそうとする気持ちが伝わります」



先生とは違う、みんなを支えてくれる人



話が分かりやすく、わくわくする

絵本の読み聞かせ
高坂尚美さん



好きなボランティア活動で参加。反応を想像しながらの絵本選びが楽しい

好きなことの魅力を伝えるやりがい

西大冠小学校で月に1回、1時間目が始まるまでの10分間で絵本の読み聞かせをしている高坂さん。絵本が好きで、ボランティア仲間と一緒にCSの活動に参加しています。

「図書館でどんな本を借りたらいいかわからないと言っていた子が、高坂さんが紹介した作者の絵本に興味を持って借りていましたよ、と先生から教えてもらったことがあって。読書の間口を広げられたことにやりがいを感じます」。活動を続けていくうちに顔を覚えてもらって、外で会うと声を掛けてもらうことも。「声を掛けてくれるとうれしいですね」と話します。



児童たちは真剣に話を聞いています。クライマックスに近づくにつれて驚きの声が上がって、最後には拍手が。「学年によってリアクションが違って楽しいです」と高坂さん



毎月来てくれるのが楽しみ



絵本を上手に読んでくれる



図書館業務補助
田畑彰子さん

保護者として参加。ただ本を借りるだけ、にならないよう工夫



学校図書館をほっとできる居場所に

第八中学校ではお昼休みでも学校図書館を利用できるように週3回開館していて、そのうちの1回を田畑さんが担当。生徒と関わる時間は15分程度と短くても、コミュニケーションを取りながら受け付けることを心掛けている田畑さん。

「借りる冊数で貸出券がランクアップするんですけど、そのことを伝えるとすごく喜んでくれることがあって、私もうれしい気持ちに」。田畑さんと話すことを楽しみにしている生徒も多いそうで、「先生でも親でもない大人として、いい距離感で活動できていると思っています。何か伝えたい相手が自分だったらうれしいな、と思いながら生徒と関わっています」。



いつも元気にあいさつしてくれて、元気をもらっています

めっちゃ優しく、私の名前を覚えてくれてうれしい





CSの活動への疑問を解消

CSの活動について普段感じていることや活動に対する思い、良かったことなどを聞いてみました

Question 1

やってみたいけど何ができるか不安です



A. まずは現場を見てみましょう

CSの活動に参加して感じたのは「やってみると意外とできる」ということ。習字などしばらくやっていないことでも、まずはやってみようという姿勢で臨んでいます。不安な気持ちは、現場を見ることで解消されますよ。私は友達と一緒に見学して、そこに知ってる人もいたので始

めてみようとして一歩踏み出せました。学校応援団のメンバーでメンコなど昔遊びを教えてくれる人がいるんです。面白いことを教えてくれるヒーローのような存在になっていて、学校って地域の人々の活躍の場にもなるんですね。



A. 自分の好きなことでチャレンジ

CSの活動は自分の好きなことや得意なことを生かせる場でもあります。活動自体を楽しめますし、子どもたちの視野が広がったり、新しいことに興味を持ったりするきっかけになるかも。活動に参加して楽しさを知ってもらいたいですね。



A. 特別な資格は必要ありません

先生という教育のプロがいる中で、素人の私に何ができるのって思うことはありました。でも地域の人が入ることで学校ができることが増えたと実感していますし、子どもにとってプラスになる



ことが多いです。特別な資格は必要なくて、自分ができることを生かして子どもに何か伝えたい、という気持ちがあれば大丈夫ですよ。

Question 2

自分自身にとって良かったことはありますか？



A. 大人同士がつながるきっかけに

CSの活動に参加している人同士の交流も楽しいです。先輩ママがいたら子育ての相談ができますし、中学生の子を持つ保護者がいたら、中学校の様子を聞くこともできます。情報交換の場にもなるので、活動後のおしゃべりも楽しんでいます。地域

の人同士のつながりが増えますね。子どもが学校を卒業しても、CSの活動で保護者や地域の人との関わりを続けることができます。自分の時間も楽しむという気持ちで、少しずつ関わってくれる人が増えたらうれしいです。



Question 3

子どもたちにどんな変化がありましたか？



A. 地域の人と顔が見える関係になりました



これまで調べ学習などで地域の人との関わりはありましたが、授業は1回きりだったので、子どもたちと関係を深めるというところまではできていませんでした。CSの活動では一つのカリキュラムで複数回携わることも。コミュニケーションの回数が増え

て、地域にこんな人があるんだ、と授業に関わる地域の人たちの人柄まで知る機会になっています。外で会うとあいさつしてくれますし、声の掛け合いが生まれて街がにぎやかになった気がします。そんな街を子どもたち自身が作っていることがうれしいですね。

次世代を育む 学校応援団に加わってほしい

市では、目指す子ども像を「人や社会とつながり、学び続け、よりよい自分と社会を創る子ども」と設定し、教育活動を進めています。そのために、全中学校区で導入したのがコミュニティ・スクールの制度です。地域の皆さんに学校の方針を知って

いただき、共にこれからの子どもたちの未来を形作ります。学校応援団になって、これからの時代を担う子どもたちを育てていきませんか。ご興味をもていただいた人は、お近くの小中学校にお問い合わせください。皆さんのご参加をお待ちしています。



市教育委員会
教育長
西田誠さん